



URL <https://kanagawanet.org/>

多様な学びを保障する

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の確保等に関する法律」が2017年2月に完全施行され、不登校児童生徒等への学びの場として、学校復帰だけでなく、フリースクールなども含まれました。

佐々木ゆみこ(ネット宮前/県議)

増加する 不登校児童生徒

小中学校の不登校児童生徒数は、2000年以降増加し、2018年には16万人を越えました。体罰など学校運営に課題があるケースもあり、いじめの低年齢化も進んでいます。学校が子どもにとって必ずしも安全な場所ではなく、心地よく過ごせる場所を学校以外にも創出していくことが求められています。

総合的に

生きる力を育む

今年の春、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長



学校以外の場所で学ぶ選択肢が認められている今、学校に行かない子どもにも学ぶ権利があり、環境を整えるのは社会の責任です。多様な生き方・働き方を選べるなか、親の価値観、経験での学校優先の生き方の押し付けは、子どもの生きる力の育みにはなりません。子どもは自由を手に入れたとき、その責任を自分で考えていくとも言われます。しかし、子どもの将来を案じ、学校復帰を優先させてしまうケースも見受けられます。不登校を経

保護者への 支援も大切

期間休校となりました。オンラインの活用やデジタル教材を活用した学校もありました。第2波3波に備えて、全ての子どもに、学校以外での学習環境を整えることも急務となっています。同時に、知りたい、やりたいことを見つけて、総合的に生きる力を育む環境はオンラインだけでは難しいことも明らかになりました。学校が再開し、学校に通うことが嬉しいと思う子どもと同じように、学校に通えない子どもにも教科学習以外が経験できる場所の整備が必要です。

フリースクールに 財政支援を

現在、県内にあるフリースクール等はNPOなど民間で運営されることが多く、その財政基盤は脆弱です。フリースクールに通うにも月謝を払うなど、家庭の負担も決して少なくありません。神奈川県フリースペース等事業費補助金がありますが、周知も含め充分とは言えません。自治体は財政支援をするべきです。見守られながら学び成長する場を地域に作る活動を支援する団体もありますが、教育委員会では把握が出来ていない場所も多く、出席にカウントされるかは

2018年県内不登校児童生徒数 調査一覧

	児童生徒数	小学校	中学校
横浜	256,717	1,659	3,319
川崎	102,819	529	1,338
相模原	52,302	247	833
横須賀	27,888	189	585
鎌倉	11,242	76	131
逗子	3,727	公表なし	公表なし
藤沢	33,882	186	432
平塚	19,372	98	251
大和	17,185	96	212
厚木	17,471	104	270
海老名	10,698	42	166
綾瀬	7,095	33	100
座間	9,363	51	129
伊勢原	7,359	39	76

神奈川ネット調査

学校長の判断に任せられています。様々な経験や体験を提供している活動を継続させ、多様な学びを社会で認めていくことが求められます。川崎市では、子どもの権利条例に基づき、子どもの居場所として「子ども夢パーク」をつくり、フリースペースも併設しています。子どもが安心して過ごせる場所を地域のなかに増やすための環境整備を進めていきます。



コロナ危機を乗り越える グリーン・リカバリー

視点



政策部長 保坂 れい子 (ネット鎌倉/市議)

就任早々菅首相は、「アベノミクスを継承し、一層の改革を進める」と語り、「デジタル庁を新設する」と明言しました。アベノミクスの成長戦略「ソサエティ5.0」(AIやIoTなどのデジタル技術による超スマート社会)の実現に引き続き取組み、国と地方における行政のデジタル化を看板政策とするようです。

コロナ危機で悪化した経済をデジタル化で回復させようとするのは世界的な潮流でもあります。欧州委員会が5月に公表したコロナ危機からの復興基金案にも、デジタル化の推進が掲げられました。この基金案では、環境重視の投資による経済復興「グリーン・リカバリー」が、もう一つの柱となっています。各国は今、経済の再建のために大きな借金をして財政出動をせざるを得ない状況にあります。それだけの負担をするならば、温暖化防止・脱炭素化に役立つ投資に振り向けようというのが、グリーン・リカバリーの考え方です。

全国の約150自治体が、二酸化炭素排出量を2050年までに「実質ゼロ」にすると言っています。県内では県と5市1町ですが、いずれの自治体も表明している具体策の実効性は不透明です。グリーン・リカバリーの視点を、国・地方、官・民を問わず広く浸透させていくことが必要です。